



小田川市政 3期目 スタート

任 期満了に伴うつくばみらい市長選挙が4月19日に告示され、現職の小田川市長以外に立候補の届け出が無かったため、無投票で再選が決まりました。

5月18日に初登庁した小田川市長に、これからのまちづくりについて伺いました。

.....

—3期目を迎えた今のお気持ちをお聞かせください。

小田川市長 このたび、3期目の市政を担わせていただくことになり、市民の皆さんから託された期待と責任の重さを改めて感じています。引き続き、市民の皆さんの声一つひとつに耳を傾けそれを市政に反映させる、市民に「よりそう市政」を第一に取り組んでまいります。

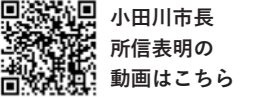
—3期目で特に力を入れる取り組みを教えてください。

小田川市長 まず、歴史公園周辺地区における交流拠点づくりです。現在、複合的な交流拠点の整備に向けて、基本構想の策定を進めています。この構想で大切にしているのは、「自然・文化・食」です。豊かな自然の中に人々が集い、

この地に芽吹く新しい文化を肌で感じ、豊かな食を囲みながら、人と人が自然に結びついていく。そんな「子どもから高齢者までが共に笑い合える場所」をつくっていきたいと考えています。

また、教育面では「英語が使える15歳」の育成に引き続き力を入れます。国際化が進む時代において、英語は子どもたちの可能性を広げる大切な力となります。幼児期からALT（外国語指導助手）と日常的に触れ合える環境を整え、小学校では1年生から英語活動を実施するなど、英語環境の充実に取り組んでいます。本年4月からは、小張小学校を「英語教育推進校」として新たにスタートさせました。英語で他教科を学ぶ「クリル型学習」を導入するなど、英語教育推進校ならではの学びを進めていますので、今後は、小張小学校で培ったノウハウをほかの学校にも広げていきたいと考えています。また、中学校ではALTに加え、生成AIを活用し、一人ひとりのレベルに合わせた学びを深めていきます。さらに、海外留学への支援など、子どもたちが世界を肌で感じられる機会づくりにも取り組みたいと考えています。

—最後に、市民の皆さんにメッセージをお願いします。
小田川市長 このつくばみらい市をさらに成長させ、50年先も愛されるまちを築くため、政策テーマである「もっとみらいへ」を胸に、「4つのみらいビジョン」に掲げるまちづくりを進めてまいります。



【市長プロフィール】

昭和42年1月23日生まれ(59歳)
つくばみらい市福原出身
…昭和54年に三島小学校、昭和57年3月に伊奈中学校を卒業、昭和60年3月に県立藤代高校卒業後、会社員を経て会社役員に。その後、明治大学公共政策大学院を修了し、平成30年4月につくばみらい市長に初当選。今年4月の市長選で3回目の当選となった。

小田川 浩

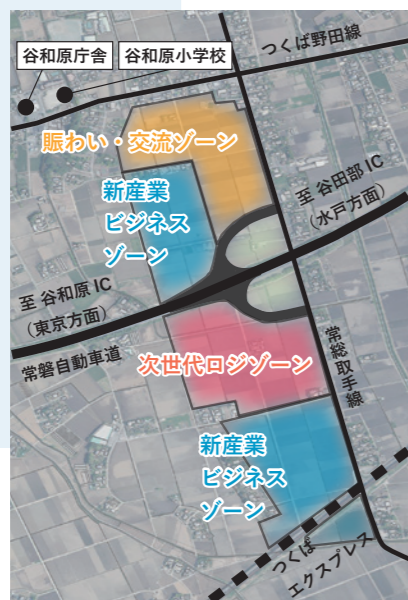


4つのみらいビジョン

"みらい"につながる 好循環なまち

人のにぎわいがまちを潤わせ、新たな人を呼び込み、さらなるにぎわいを生む。半世紀先を見据えた「稼げるまち」へ。

- みらい平地区と伊奈東地区の間に市街地エリアを拡大
- つくばみらいスマートIC周辺開発を推進
- 新たな地域振興ビジネスの創出



"あれも、これも" 本気の子育て・子育てのまち

「あれか、これか」ではなく、必要な施策に人も金も物も本気で投入。妊娠から子育てまで切れ目なく。

- 「英語が使える15歳」の育成を加速
- 「みらい平中学校」を令和9年4月に開校
- 全中学校の体育館に空調設備を導入
- 小学校1年生と中学校1年生の教材費を無償化

"ど真ん中"に市民がいるまち

国の横並びではなく、市民の声を聴き「今何をすべきか」をスピード感をもって実行。市政のど真ん中に、いつも市民がいる。

- 歴史公園の周辺地区に、「自然・文化・食」をテーマとした複合的な交流拠点を整備
- 市民懇談会のさらなる充実



"人に、社会に"やさしいまち

誰もが楽しめ、いつまでも暮らせるまちへ。

- 病院バスを新たなフェーズへ。より便利に・快適に利用できる交通環境を整備
- 通学路の安全対策を強化
- 福祉に関するまると相談窓口の開設